

令和7年度 教育研究所 班別研究

「授業改善プロジェクトチーム」

I 研究テーマ

「自律した学習者」の育成に向けた児童が主語になる授業づくり
～自分事化をキーワードに自己決定、対話・交流、試行錯誤の場面を効果的に取り入れることを通して～

II 研究の目的

「自律した学習者」を育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、児童生徒が主語になる授業づくりについて、実践を通して提案する。

研究にあたっては、授業改善実践研究指定校であるA小学校の校内研修の伴走支援・助言、研究発表授業者の実践を校内研修に生かしながら進めることとする。

A小学校 校内研修テーマ

「主体的・対話的で深い学び」を実現できる自律した学習者の育成
～【対話・交流場面の工夫を通して】～



Ⅲ 研究内容

1 「校内研修の取組」

(1) A小学校の課題

- ・児童の学力差。基本の定着が不十分で勉強に対する意欲や自信がもてない児童多数。
→意欲を高めながら基本を身に付けられる授業づくり、家庭学習が必要。
- ・課題に対して深く追究することに苦手意識がある。
→他者との対話・交流によって、解決のヒントに気づけるような授業づくりが必要。

(2) 実践内容

①目指す児童像の明確化

- 低…自分の考えを伝え合い、認め合うことができる児童。
- 中…友達の意見を聞いて、同じところと違うところを見つけることができる児童。
順序立てて自分の考えを説明できる児童。
- 高…自分の考えをもち、表現できる児童。
他者の考え方に触れて、自分の考えを再構築して、それを表現できる児童。
(言葉のキャッチボールができる)

②対話・交流ヒントシートの作成・活用

はばプラⅡをもとに、対話・交流のヒントを3つのポイントにまとめ、ブロックごとに具体的な手立てをまとめた。

- ポイント1**：一人一人が自分の考えをもち、表現する方法の工夫
- ポイント2**：他者の考えを知る必要感を高め、他者と自然に関わり合うことができる環境作り
- ポイント3**：対話をつなげたり、広げたりすることを意識した問いかけ



1学期に作成し実践を重ね、実践を基に改善を行った。

③一人一授業の実施

研究テーマに沿って1学期と2学期にそれぞれ1回ずつ、全員が実践した。

④リレー授業の実施

2学期には、研修の重点である「対話・交流」がさらに有意義なものになるよう、「自己決定」「試行錯誤」の場面を取り入れることを意識し、全職員で実践を行った。

各ブロック代表者8名が順番に授業を行い、ブロックごとに授業参観、研究会を行って明らかになった課題を次の授業に生かすことを通して、よりよい授業づくりを目指した。



⑤家庭学習における ICT の活用

ICT を活用した家庭学習推進のため、「ICT 版家庭学習のすすめ」を作成した。

- ①ロイロノートで動画をとってみよう！ ②デジタル教材で問題を解いてみよう！
 ③教科書の QR コードはすぐれもの！ ④めざせ！キーボード名人！
 ⑤「プログラミング」にチャレンジ！ ⑥他にもいろいろなことができる
 ⑦家庭でのルール作りについて



(2) 成果 (○) と課題 (●)

○全教職員で「対話・交流ヒントシート」を基に実践を行ったことやブロックごとにリレー授業を行ったことで、課題解決のために有効な対話・交流の取り入れ方や教師の関わり方、また、自分事としてとらえる工夫や対話・交流をきっかけに試行錯誤する場面の設定など、児童主体の授業改善を学校全体で進めることができた。

○児童の変容としては、相手の意見から新たに気づき、自分の考えと比較しながら試行錯誤し、再考する姿や自分の考えをブラッシュアップする姿が見られた。

【11月に実施した児童アンケートの結果】



●児童アンケートの結果から、友達にアドバイスをしたり、「すごいね」「いいね」など自分の考えを伝えたりできる児童は、70%程度であった。今後さらに、友達の考えを聞いて、それに対して自分の考えを伝えられるような児童を育てるため、「対話・交流ヒントシート」を活用・改良していく。

●一人一授業の実践について、職員全体で共有する機会がもっとあってもよかった。「対話・交流ヒントシート」のどの部分を、どの教科で、実際にどのように活用したのかを共有することで、職員全体の授業力の向上につながったと考える。

2 「B教諭の実践」(算数科)

(1) 実践内容

〔手立て1〕自分事化するための工夫

- ・既習事項を想起し、関連付けながら、課題解決の見通しをもてるようにする。
- ・「本時の問い」を児童とやりとりしながら設定する。

〔手立て2〕対話・交流ヒントシートの活用（ヒントシートで共有している手立て）

ポイント1：一人一人が自分の考えをもち、表現する方法の工夫

- ・ICTを活用した自力解決を助けるヒントカードの配布
(タブレット上で具体物を操作する、自分の考え等自由に書き込み表現する、自分で使いやすいカードを選択する)

ポイント2：他者の考えを知る必要感を高め、他者と自然に関わり合うことができる環境作り

- ・「自分の考えを説明する」という課題を設定する。
- ・ロイロノート共有機能で他の人の考えを見合えるようにする。
- ・必要なタイミングで自由に交流できる時間を設定する。

ポイント3：対話をつなげたり、広げたりすることを意識した問いかけ

- ・対話の視点（他者との共通点や相違点を見つける）を提示する。
- ・分からないところや疑問に思ったことは質問するように促す。

(2) 成果（○）と課題（●）

○追究していく「本時の問い」を児童が設定することで授業の取組や自力解決への意欲が高まる様子が見られた。

○自分の考えと比較したり、友だちの考えを聞いたりしたいという思いをもち、主体的に交流する児童が増えた。その中で、多くの友だちと対話・交流を行うことで相手の意見から新たな考えに気づき、自分の意見をブラッシュアップする姿が多く見られるようになった。

●課題解決のためにより有効な対話・交流になるために、考えの変容を全体で共有し、追究する場面を設定する必要がある。

●より主体的な学びになるよう、多様な考えが出る「問い」の設定を工夫する必要がある。



2 「C教諭の実践」(国語科)

(1) 実践内容

〔手立て1〕自分事化するための工夫

- ・必要感のある言語活動の設定

「表現を工夫して俳句を作り、クラスで句会をひらこう」

「先生の仕事の秘密についてインタビューをし、紹介カードで下級生に伝えよう」など

- ・各単位時間のめあての共有

(单元全体を見通したり前時までの学習を想起したりさせながら児童から引き出す)

〔手立て2〕対話・交流ヒントシートの活用(ヒントシートで共有している手立て)

ポイント1: 一人一人が自分の考えをもち、表現する方法の工夫

- ・モデルの提示(ゴールイメージの共有)

ポイント2: 他者の考えを知る必要感を高め、他者と自然に関わり合うことができる環境作り

- ・ヘルプカードを作成し、自分が困っていることを明らかにする。
- ・ロイロノートで友達の考えや作品を自由に閲覧できるようにする。
- ・交流の目的や視点を明確にし、振り返りにより交流の価値づけを行う。

ポイント3: 対話をつなげたり、広げたりすることを意識した問いかけ

- ・意見交換で終わらないように疑問に思ったことを相手に聞くよう促す。
- ・よい交流の場면을称賛し、全体で共有する

(2) 成果(○)と課題(●)

○言語活動を設定する際、どうすれば「自分事化」に繋がるかを意識しながら行ったことで児童が意欲的に取り組めるようになった。

○上記の手立てを繰り返し取り入れ、実践を行ってきたことで、相手にアドバイスをしたり、自分の考えと比較したりしながら交流できる児童が増えた。「何でそう思ったの?」と問いかけたり、新しい考えを吸収し、自分の中で活かしたりする様子が見られた。

○課題解決の過程で、友達と交流して考えが広がったり深まったりしたことを自覚している児童が増加した。

(児童アンケート「話し合い活動を通して、考えを広げたり、深めたり、よりよい考えを生み出したりすることができたか。」7月78%→1月85%)

●単元や内容によっては、課題を自分事として捉え、考えをもつことが難しい児童もいるという課題が残った。そうした児童に対する手立ての検討が必要である。

●課題解決の方法の一つとして、児童自身が必要な対話・交流の方法を選択し、主体的に取り組むことができるように、単元や各単位時間をデザインしていく必要がある。

